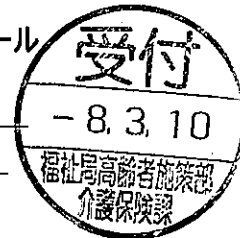


自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター天保山

作成者: 矢澤 勇



作成日: 2025年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2025年 12月 2日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	外部評価	評価結果	評価理由
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	スタッフ自身もお客様と関わり、少しのことでも喜びを感じている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	B	ボランティアの方が毎月入ってくれている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C	まだまだサービス向上には至っていない。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C	日頃から密には取れていない		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束は行われていない、定期的に身体拘束適正化委員会を実施。	A	
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	B	毎年虐待防止研修を実施している。	B	
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	C	成年後見制度を利用しているが、成年後見人本人と話す機会が一部の管理者・リーダーだけになっている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	契約後も質疑応答を受け付けている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ投げる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	ホームに来られた際必ず声を掛け、意見をうかがっている。	A	
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	毎月の会議の中で連絡事項とは別にスタッフ個人の意見・質問を聞く時間を設けている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	有給休暇の取得、必要な残業は認めサービス残業とならないよう努めている。	B	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	C	外部の研修を受ける機会が減っている為、今後情報収集を図る。	C	
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	支店内で管理職だけでなく新しいスタッフも対象とした会議を開催している。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	C	認知症間こともあり、ニーズをしっかりと聞き取れているかと聞かれると難しい部分もある。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	あまり連絡が取れなかった親族（従妹など）連絡があった際には確認して取り次ぐようにしている。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター天保山

作成者: 矢澤 勇

作成日: 2025年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2025年 12月 3日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	外部評価 評価結果	外部評価 コメント
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	C	日頃の会話の中で趣味趣向などの把握に努めているが、年配の方なので逆に気を遣われている部分もあると思われる。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	B	会議面でもスタッフ一人一人に聞き取り意見を求めている。	B	
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	C	情報共有の部分が少し足りていないと感じる。	C	どの部分か不明 感じました。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	B	急な面会や外出・外出などにも対応している。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	C	地域資源と考えると、まだまだ把握できていない部分が多い。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	B	かかりつけ医(看護師も含め)顔なじみところも相談するようにしている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	病院側が可能であれば退院前カンファレンスも提案している。	B	
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	B	人によって入居の段階で終末期について話し合っている。	B	
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	C	すべての職員が実践力は身に付けていない。何かあった時に不安になってしまうスタッフもいるので、今後の課題。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	C	BCPを作成、昼夜問わずの部分が難しく管理者が関係付けられない時もある。	C	防災のとりくみは 月1を目安に定期 開催していきましょう。 (海が近いので どのシフトにも対応 できるように)

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター天保山

作成者: 矢澤 勇

作成日: 2025年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2025年 12月 31日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	評価 結果	コメント
III. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	C	声掛けの面では気になった際にスタッフに声を掛けようとしているが、適切な声掛けでないと感じる時もある。	B	個室でそれぞれの生活スタイルを大切にしている
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日ごとのように過ごしたいか、希望にそって支援している	C	共同生活でもあるので、全員の希望に添えているかという点難しい。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B	出来る限りできる方には一緒に行うことをお願いしている。	B	
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	とろみ剤の使用・量など水分・食事摂取量も把握。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	歯科診療もあり、義歯の調整・取り扱いなど協力している。	B	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	C	かかりつけ医とも連携しながら日々試行錯誤している。	C	少ない体制で大変な対応を強いられている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	C	出来たら、夕食後など遅い時間帯に入っていた習慣がある方はそのまま続けてもらいたい気持ちはあるが、職員の配置など実現させるのが難しい。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	夜間眠れない時など職員が話し相手になっている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	変更があれば情報共有、薬剤師にも注意点を聞いている。	B	
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	火事が発生した場合は出来るだけ残存機能を生かせるよう声を掛けている。男性の方でも「おしやうか？」と声を掛けられることもある。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、音障は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	定期的に自宅に戻り過ごされている方もいる。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	金銭管理は紛失のリスクもあるため事務所内となっている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C	一部の方ははがきを書いたり、携帯電話で電話をかけている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	分かりやすいように居室前に名札を付けたり、頂いた花を飾ったりしている。	A	しっかりと掃除ができています。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター天保山

作成者: 矢澤 勇

作成日: 2025年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2025年/2月3日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 評価	外部 評価
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	C	全員、意向に沿った暮らしが出来ていると言われれば力不足だと感じている。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	入居前のアセスメント・入居後も会話を通じて聞き取り共有している。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	C	往診・訪問看護でも報告している。	B	
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	C	これまでの習慣とは違う部分もある。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	B	入居の際に持ち込まれている。入居後もご家族様も持ってこられることもある。	B	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	C	ご家族様の用事や都合もあり、希望通りには出来ていない。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	C	男性の方でも洗濯物をたたんでいただいたりなど今までしてこなかったことも取り組んでいるが、全員とは言い難い。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B	なるべく一人一人に話しかけ言葉を引き出すようにしている。	B	1人1人の対応方法を共有できるといいですね
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	C	まだまだ近隣・地域の方と関わる機会はないと思う。		
49	総合	本人は、このGHにいてことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	C	安心している方もいれば、自宅に戻りたいと思っている方もいる。一人一人が安心して暮らせるホームになっていくにはまだまだこれから。	B	

総評

職員体制が大変な中、日々頑張っていると感じています。日頃より地域との連携でより機会がもたらうと思っています。

参加者サイン欄

港区南部地域包括支援センター 山際

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

今後共進力かよりお願いしたい。